

## 令和6年度大学職員情報化研究講習会基礎講習コース開催結果の概要

### 1. 参加状況

期 間：令和6年10月21日～22日

場 所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

参加者：60名（36大学、1短期大学） ※昨年度62名（36大学）

### 2. 研究講習会の目標

本コースは、最新のデジタル技術導入事例などを踏まえて知識・理解の獲得、実践的な考察力の促進支援、主体的に取り組む考察力の獲得を目指した。

### 3. コースの進め方

4本の情報提供「教学IR」、「データの取扱い」、「生成AI」、「DX人材育成」を行い、その上で、グループ討議では、業務改革DXについて、具体的な課題を絞り込み、ICTを活用した望ましい改善策の提言作りを行い、全体で発表した。

### 4. グループ討議からの提案概要

- ① ICTの活用については、「チャットボット」、「電子決済・ペーパーレス」、「コミュニケーションツール」、「RPA」、「AI」、「BIツール」の提案があった。
- ② DX化に向けた課題解決としては、「環境づくり」、「安心感・コミュニケーション促進」、「プロジェクト化」など、対応や体制面から推進する提案もみられた。
- ③ 提案の一例として、「受験生と教員のマッチングアプリ」、「資料・データの検索時間削減」、「IR分析結果の活用」、「学生を巻き込んだペーパーレス化の取組み」、「窓口業務のスマート化」などがあげられた。

### 5. 参加者の事後研修レポートから、今後の取組み姿勢の一部を紹介

- ① 業務DXにおけるSD研修を学内で実施したい。
- ② 紙申請書のデジタル化や手作業業務の効率化を優先的に進め、システム導入の基盤を整えたい。
- ③ 窓口業務の負担軽減をテーマにAIを活用した対応を構築したい。
- ④ 生成AIに関して、まずは情報システム課内で業務に活用できるか検証を行いたい。
- ⑤ データの見える化と生成AIの活用を検証するチームを構築したい。
- ⑥ チャットボット設置等により、単純作業を減らし、業務の質の向上に時間を充てたい。
- ⑦ 業務プロセスを洗い出し必要性を再評価することで、情報検索や確認作業のプロセスを改善し、RPAや自動化ツールにより業務の効率化を図りたい。
- ⑧ 上位者や学生を巻き込んだ改善活動を意識しながら、業務改善に取り組んでいきたい。